

2022年11月9日(水)第二水曜祈祷会

エゼキエル書40章1～27節

「神殿の幻」

【前章までのあらすじ】 *38、39章はゴグについての預言。ゴグ、マゴグは黙示録20章にも登場。

- ①イスラエルの民が祖国に帰還して平和に暮らしている頃、ゴグが連合軍を率いて攻め寄せる。
- ②神は驚くべき方法で勝利を収め、神が主であることを知らしめ、メシヤ的な平和を実現する。
- ③イスラエルは神の聖なる名を知り、二度とそれを汚さない。神の回復の御業が民に語られる。

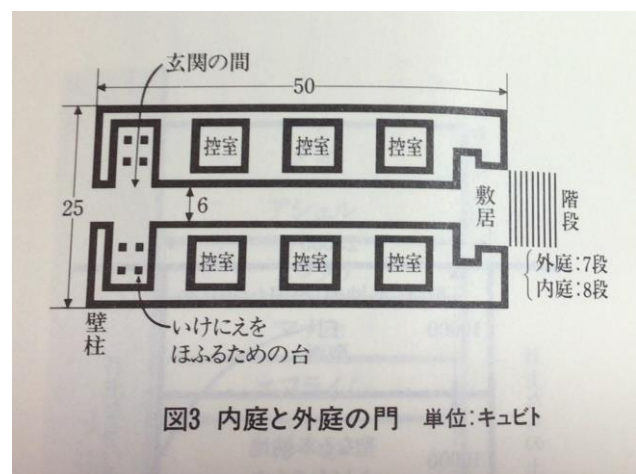
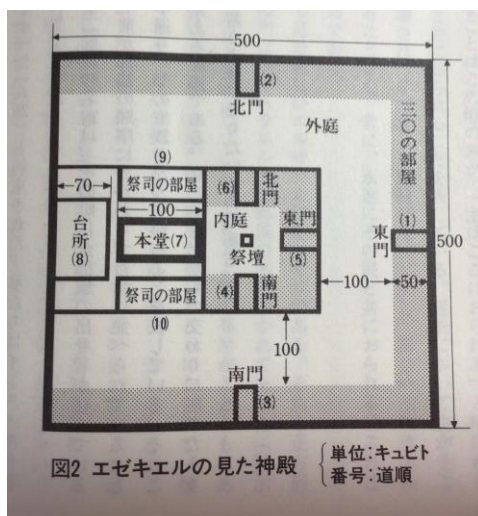
【観察と黙想】 *40—48章はエルサレムの希望についての預言。

1. エゼキエルが見た幻(40章1～4節)

- ①エゼキエルたちがバビロンの捕囚となって25年目とはどんな状況だったと思いますか。
→
- ②「主の御手が私の上にある」とはどういうことを表していますか。
→
- ③神はなぜエゼキエルに神々しい幻(新しいエルサレム)を見せたのですか。
→

2. 幻の神殿(40章5～節) *一キュビトは約44cm、一手幅は約7.4cm、一竿は3m。

- ①青銅でできている人(御使い)はエゼキエルにまず何を見せましたか。
→
- ②次に御使いは神殿の外庭の三つの門と内庭の三つの門を見せた。



【適用と分かち合い】

- ①次世代への信仰継承についてどんな課題がありますか。
- ②預言者とはどんな使命がありますか。
- ③天に真の神殿が存在することはあなたにとってどういうことですか。